

【特集:おらほの農地集積】

「ほ場整備事業を契機とした効率的な水田農業の展開」

～大豆のブロックローテーションの確立を目指す～

おおくませいぶ
逢隈西部地区

1. 地区の概要

事業名: 県営ほ場整備事業(担い手育成型)	担い手農家戸数: 個別14戸
関係市町村: 巨理町	3組織
関係土地改良区: 巨理土地改良区	担い手経営面積
工期: H14~H19	実施前: 45.0ha
受益面積: 390.2ha	H15実績: 51.3ha
総事業費: 5,482百万円	農地集積率: 13.1%
農家戸数: 653戸	農地集積増加率: 4%



2. 地域農業の現状

巨理町は県内でも園芸作物の生産が盛んな地域であり、平成14年の農産物粗生産額は園芸が55.3%、米が38.8%となっている。特にいちごについては、隣の山元町と東北一の産地を形成している。

本地区では、個別経営農家653戸のうち兼業農家が8割をこえる一方、専業農家を中心に施設野菜(しゅんぎく、いちご、ほうれんそう、きゅうり、トマト)や花卉を組み合わせた複合経営が展開されている。

土地利用型作物については、大豆が平成9年よりJAの振興作物として位置づけられ推進されるとともに本地区の東側に隣接する逢隈東部地区(県営ほ場整備事業(担い手育成型) H8~16)において栽培されていることもあり、地区内において大豆栽培の機運が醸成されてきた。

3. 転作組合の設立

面工事は平成15年度から始まり約30haを終了した。これに先立ち、工事区域の土地利用計画について協議が重ねられた結果、平成15年度の面工事終了部分については大豆を作付することで合意が図られた。

大豆の受け手としては、活性化計画の個別担い手の中から4名が選ばれ、平成16年4月に「逢隈西部第1転作組合」が設立された。面工事終了部分のうち約12haについて連担団地化して栽培が行われている。まもなく収穫を迎えるが、組合として初の取り組みであった今年の経験が来年以降への大きな自信になったものと思われる。

大豆については、地区内を3つのブロックに分け各ブロックにおいて4~5年でローテーションする方向が検討されており、逢隈西部第1転作組合はその1角を担う担い手として活躍が期待されている。また、ブロックローテーションの円滑な推進のため営農組合長6名で「逢隈西部地区第1営農推進対策連絡会議」が組織され、関係集落間の調整を実施する。



【逢隈西部第1転作組合による大豆播種状況】

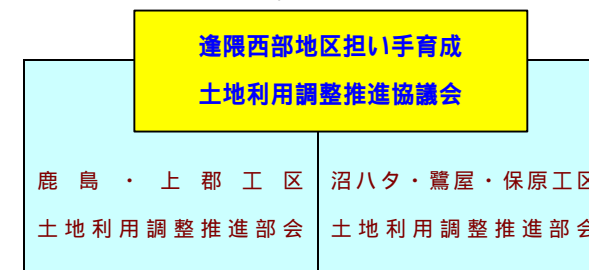


【大豆の生育状況】

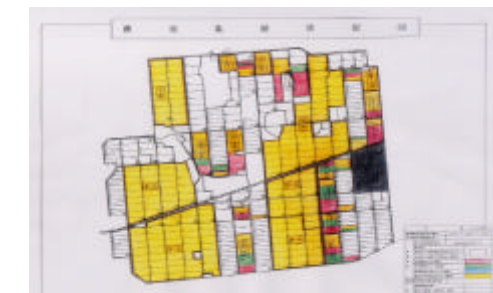
4. 土地利用調整組織の再編と事業の啓蒙

従来は「逢隈西部地区担い手育成土地利用調整推進協議会」で活動が行われていたが、面工事の進捗状況に合わせてより一層の集積を推進するため、協議会を「鹿島・上郡工区土地利用推進部会」と「沼八タ・鷲屋・保原工区土地利用推進部会」の2つの部会に分ける形で再編された。平成16年8月の協議会総会に諮られ承認されており、今後は面工事が入っている「鹿島・上郡工区土地利用推進部会」中心に活動が展開される。

また、まだ採択されて間もないこともあり、地区内受益者の集積に関する意識や集積事業についての理解をさらに推進していく必要があることから、事業内容の説明と担い手の概要を示したパンフレットを作成、配布し啓蒙を図っている。

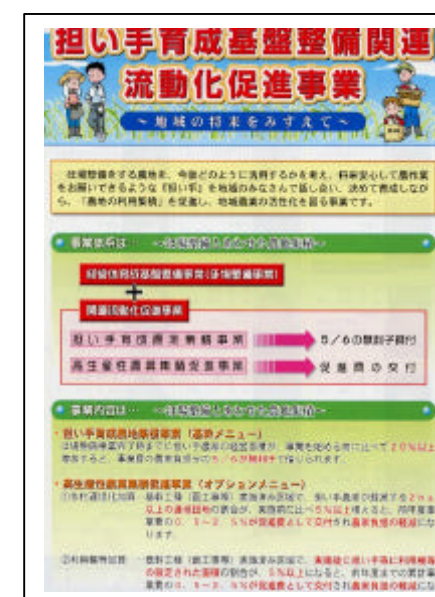


【土地利用調整組織図】



【農地集積状況図(活性化目標)】

作成したパンフレット



<問い合わせ先>
水土里ネットわたり(巨理土地改良区)
〒989-2351 巨理郡巨理町字江下124
TEL 0223-34-1319/FAX 0223-34-7603